

◇新理事長・館長対談いんたびゅー

市民も巻き込みながら よりよい博物館に向け努力!!

◇企画展「横浜市立大学コレクション・古地図の世界」によせて

◇特別展「N. G. マンローと日本考古学」を終えて

◇「私がみつけた横浜の年中行事」・写真募集!

◇〈ちょいとミュージアムショップたいむ〉オリジナル工作キット

◇大塚遺跡まつりとラストサタデープログラム

◇〈知ってますか?〉「エントランスホールコンサート」

●富岳図巻「絶頂略全図」「九合目略全図」(写真上)
富岳図巻「五合之上六合之下俯臨晩色図」(写真下)

横浜市 歴史博物館 NEWS 35 2013・9





(公益財団法人) 横浜市ふるさと歴史財団理事長
五味 文彦 (こみ・ふみひこ)

●一九四六年、山梨に生まれる。東京大学大学院修士課程修了。日本中世史専門。放送大学教授。東京大学名誉教授。二〇一三年七月より公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団理事長に就任。
●主な著書『院政期社会の研究』(山川出版社、一九八四年)『中世のことばと絵』(絵巻は語る)『中公新書、一九九〇年』『徒然草』の歴史学(朝日新聞社)『朝日選書、一九九七年』『書物の中世史』(みすず書房、二〇〇三年)『西行と清盛 時代を拓いた二人』(新潮選書、二〇一一年)『鴨長明伝』(山川出版社、二〇一三年)など。

「いんたび 妙」

市民も巻き込みながら

よりよい博物館に向け努力!!

◎横浜市歴史博物館の指定管理者である横浜市ふるさと歴史財団の理事長に、このたび放送大学教授の五味文彦が就任、また当館館長の鈴木靖民は同財団理事も兼ねることになりました。新理事長を迎えて、財団の在り方、これからの抱負などを館長と語り合います。

地域の文化財から歴史を探る

館長 五味先生は、横浜市の歴史や文化財関係のいろいろな委員会に関わってこられました。横浜の歴史を考え始めたのは、どういう理由ですか。

理事長 私の専門は鎌倉時代で、現在は茅ヶ崎に住んでいますので、鎌倉にはよく

行き、見て、学んできました。横浜には、鎌倉に隣接する地域として以前から関心を持っており、横浜の文化財関連の委員も務めるようになりました。最近では、鎌倉を世界遺産に、という動きに対し「ぜひ横浜・金沢区の称名寺も入れるように」という働きかけもしました。文化財関連の取り組みに参加して感じるのは、地域の文化財は、その地域の歴史の特色を最も端的に表している、ということ。文化財に身近に接し、それについて考えることは、その地域が今後、どういう形で進んでいけばいいかを探るきっかけになる、と言えます。そういう意味で、博物館は、地域にとって重要な存在だと思います。

横浜は日本史全体にとって重要

館長 この博物館は、地域史を調査・研究して市民に公開する、という役割を持っています。この点については、どうお考えですか。

理事長 地域史というのは、単にその地域の歴史ということだけでなく、日本の歴史そのものになる場合があります。

館長 私もそう思います。地域史の集合が、日本史全体を解明する、あるいは日本の歴史そのものを示すのではないのでしょうか。例えば鎌倉は、あの時代、政治や文化などの中心地でしたから、鎌倉の歴史を調べることは、日本史全体を研究することになるわけです。

理事長 そうですね。横浜の場合、中世は鎌倉を周辺地域として支え、近世になると江戸を経済的に支えていたので、日本史全体の中で重要な意味を持っています。

館長 私の専門の古代は、横浜は、日本の歴史の中心ではないけれども、大和政権が東北に進出するための軍事基盤となっていました。中世はまた、鎌倉の入り口として交通の要衝でもあり、近世も、江戸に通ずる重要な東海道が通り、さらに幕末の開港、近代には東京の玄関口、という機能を担っていました。

理事長 私は、東京が日本の首都になったのは、周辺に位置する横浜の発展があったからではないか、と思っています。開港によってあらゆるものが変わりましたが、それを牽引したのが横浜だと言えます。この

ように、歴史的に非常に重要な地域である横浜の知的財産を、うまく生かして伝えていくことが、この博物館の魅力になると思います。

地域の味をインパクトある形で

館長 当館では展示活動、講演会をはじめ多様な活動をする中で、常に基本に置いているのが地域貢献です。そのことについて、どんな考えをお持ちですか。

理事長 博物館に来られた方が、自分の地域に誇りが持てるようなものを提供していくべきではないか。それに加えて「今までの博物館とは違う。こんなこともやっていく」などと目を見張るような特色も持っている。つまり、地域が持っている味だけではなく、その味をより、インパクトのある形で伝えていくことが求められているのではないかと思うのです。限られた予算や資源でやるのは難しいかもしれませんが、少



なくとも、そういう気概を持つことは必要だと思っています。

館長 博物館の職員に求められることですね。

基本的な姿勢が身に付くように

館長 フランスの画家、ポール・ゴーギャンが絵に記した「われわれはどこから来たのか われわれは何者か われわれはどこへ行くのか」という言葉があります。これは歴史に対する基本的な構え方、博物館で働くものが常に持っているべき姿勢だと思います。言い換えれば、歴史は、古代でも中世でも、スクリーンに映る映画のように、向こう側にあるのではなく、こちら側、つまり現代の自分たちとつながっている、と理解すべきものです。このことを市民も、博物館の展示やその他の活動を通して身に付けていただきたい、という願いがあります。当館は生涯学習の場にもなり、地域の文化センター的な機能も持っているのです。学芸員、事務の職員を含めた館の側の力を高めるだけでなく、市民の側が、歴史の捉

え方を深めるために、何ができるか、ということも課題になっています。

理事長 市民向けの文化センターという面の一方、歴史を専門とする知的集団にもならなくてはいいけないと思います。横浜市や市民に対し、いろいろな助言ができるように、歴史をきちんと学ぶことが大事だと思うように、伝えてゆきたいと思っています。博物館の学芸員は、大学の研究者などと違い、自分たちが調べたり研究した成果を、展示という手段で表現できる。そのメリットも十分生かしてほしいと思います。資金が足りないなら、外部から助成金を受ける、ということも検討すべきでしょう。

小学校にある史料などを活用

館長 展示では内容に応じて、いろいろな機関に助成金を申請する、といった努力をしています。今後も、事業費や活動費をつくるための工夫を続けていくつもりです。**理事長** それはよいことです。財団としては、管理運営している当館、横浜開港資料館、横浜都市発展記念館、横浜ユーラシ

ア文化館、横浜市三殿台考古館の五館の組織をもう少しスリムにして、全体の交流を促して、事業の充実を図っていききたい。組織や予算については、横浜市が中心になって考えることですが、財団も専門家集団として積極的に訴えていくべきだと思います。

館長 当館で今年度から「博物館デビュー」と名付けた支援事業を始めました。市内の小学校には、それぞれ資料室やミニ博物館のようなところがあり、そこで民俗資料や考古資料を持っていますし、近現代の資料となる学校史の文書、記録などもあります。それらをまずはすべて調査して、ゆくゆくはこの博物館で展示して市民に還元する、というものです。若手の学芸員が中心になって企画し、国の文化施策に応募して採択されたもので、外部資金を利用した活動の一例です。

館員はもっと自信を持って

館長 巻き込む活動ではほかに、遺跡公園のボランティア・ガイドなどもやっています。市民の側は、これから高齢社会で、退職シニアがますます多くなる、という問題があり、博物館をはじめとする文化的な施設が、地域で、もう少し、大きな存在になっていかなければいけない、という気がしています。

理事長 やるべきことはたくさんある、ということ。そこで何をやるのか、とい



う時に、私が指揮棒を振るのでなく、館の中から、活動の核となるのは自分であると積極的に乗り出してほしいのです。市民と直接関わり、存在感を出していく。「ふるさと歴史財団にはあの人がいる」と言われるような、目に見える存在になつてもらいたい。そうやって市民と財団と市をきつちり結び付けるような人材が現れてほしいのです。博物館の人はもっと自信をもつてほしい。自分が「しなかつた」ではなく「やるのだ」という気構えをもってほしいのです。

館長 そうすれば、自ずと市民からも、よいアクションが出てくるはずで、ひいては、市へのアピール力も強まる、ということだと受け止めました。私は財団の理事も兼ねていますから、よりよい博物館にするため、理事長とともに力を尽くそうと思っています。

理事長 一緒に努力しましょう。

館長 きょうはありがとうございました。



横浜市歴史博物館館長
(公益財団法人) 横浜市ふるさと歴史財団理事
鈴木靖民
(すずき・やすたみ)

●一九四一年、北海道に生まれる。一九六九年、國學院大学文学研究科博士課程修了。日本古代史、東北アジア古代史専門。一九八七年より、國學院大学教授。二〇一二年、國學院大学名誉教授。二〇一一年七月、横浜市歴史博物館館長に就任。
●主な著書『古代対外関係史の研究』(吉川弘文館、一九八五年)『日本の古代国家形成と東アジア』(吉川弘文館、二〇一二年)『倭国史の展開と東アジア』(岩波書店、二〇一二年)『比較史学への旅』(勉誠出版、二〇一二年) など。

横浜市立大学コレクション・古地図の世界

「地球のかたちと万国の大地」

によせて

古来より、さまざまな古地図・絵地図が作成されてきました。それらの古地図・絵地図は、それを描いた人々やその地図を受容・利

用してきた人々の、生活世界や観念世界に関する意識や認識が図示化されたものであり、そこに表現されている事柄を手がかりとし

て、当時の人々の世界認識・地理認識を考えることができます。

また、近代化の進展に伴い、かつて「荒唐無稽」の内容が多かった古地図・絵地図が、厳密な測量にもとづく科学性を追求していく中で次第に精度を高め、地理を「正確に」表現するようになっていきますが、その過程は必ずしも一直線ではなく、それぞれの時代・地域における情報の内容や多寡により、さまざまな紆余曲折の過程を経ていきます。

こうした古地図・絵地図の豊かな世界を題材に、横浜市歴史博物館では一〇月一二日（土）～一二月四日（日）の会期中、企画展「横浜市立大学コレクション・古地図の世界―地球のかたちと万国の大地―」を開催します。この企画展は、共に横浜市関連の教育・研究機関である、横浜市歴史博物館と横浜市立大学が連携・協力して開催するもので、横浜市立大学が所蔵する貴重書コレクションの内、鮎澤信太郎文庫（歴史地理学者・故鮎澤信太郎氏が収集した江戸時代を中心とする古地図・地誌類）と、梵暦コレクション（梵暦

Ⅱ 仏教天文学に関連する資料群）の中から、これまで公開されなかった作品を含む約六〇点を一堂に展示します。鮎澤文庫に関する本格的な展示としては、昭和五十八年（一九八三）に横浜開港資料館で開催された「横浜市立大学図書館（鮎澤コレクション）収蔵記念展 鎖国時代世界図の系譜」以来、三〇年ぶりのものとなります。

展示資料からは、古地図をとおして江戸時

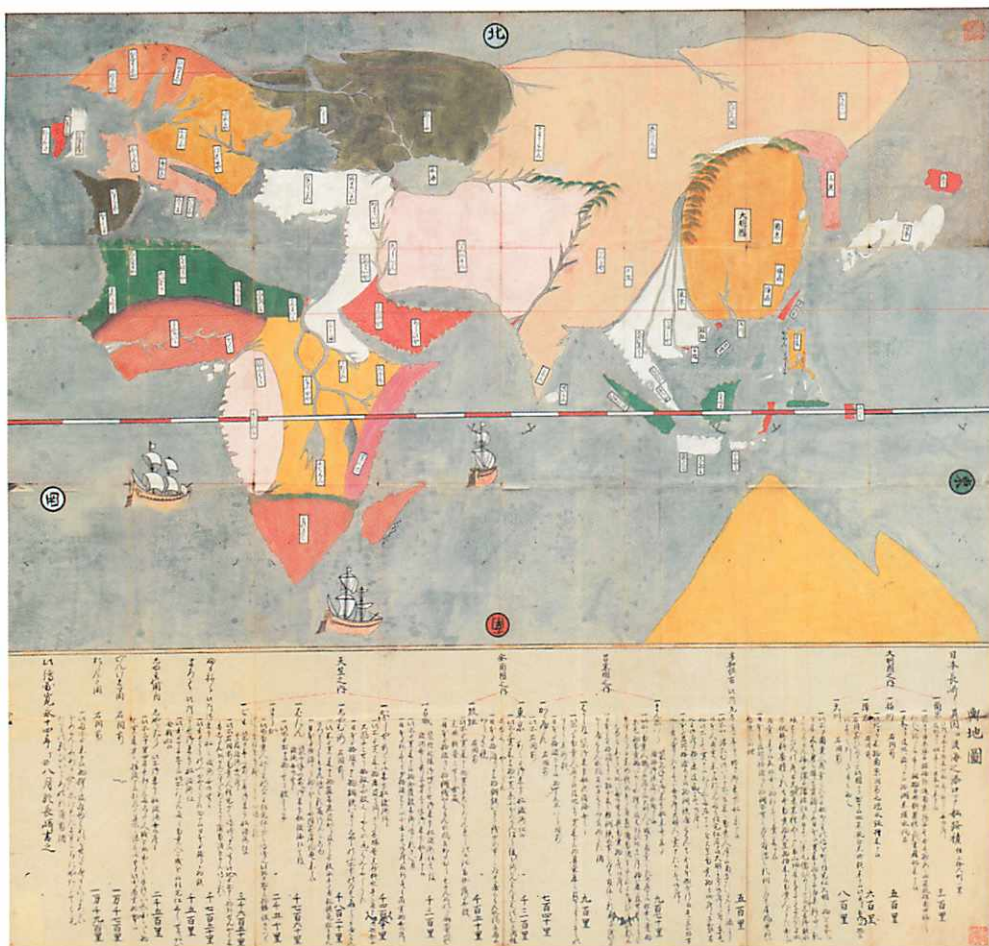
代の人々が具体的に抱いていた世界・地域認識を知ることができると同時に、巨大な地球全図に収められた万国の姿、色彩豊かな大地の形から、作品としての美しさ、地理が次第に明確になる歴史的な過程を古地図からたどることが出来ます。また、仏教天文学にかかわる作品では、仏教が西洋天文学に出会うことによって、それまで伝統的に考えられていた仏教的世界をどのように解釈しようとしたのか、その思考過程などをたどることが出来ます。

企画展の関連事業として、博物館主催の講演会・研究講座・フロアレクチャーを実施する他、横浜市立大学主催のエクステンション講座「地図を旅するイマジネーション―古地図展に寄せて―」を歴史博物館研究室にて開催いたします（詳細はチラシ等参照。なお、エクステンション講座については横浜市立大学地域情報センターへの申し込みとなります）。

また、この企画展は、横浜市立大学が平成二三年度～二五年度の三年間にわたり実施している、横浜市立大学戦略的研究推進費「デジタルアーカイブ構築による大学文化財の保存・活用と研究ネットワークの形成」〔研究代表者 准教授・松本郁代氏〕の研究成果の一環です。

本展示を通じて、仏教的世界観に裏打ちされたインド・中国・日本から構成されていた伝統的な世界像が、一六世紀におけるヨーロッパ世界との接触により、欧米を含むこんだ、ほぼ現在の世界全体に相当する世界像へと変容していく中で、描かれた世界図やそれをふまえた日本図・地域図などの表現・内容・情報等が、鎖国制下の江戸時代においても、徐々に広がって展開していく様相をご理解いただければと思います。

（斉藤 司）



寛永輿地図（横浜市立大学所蔵）

特別展

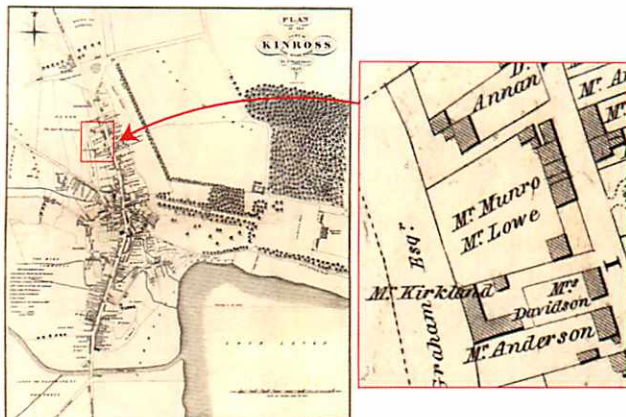
N. G. マンローと日本考古学

— 横浜を掘った英国人学者

を終えて

今年の四月五月に開催した「N. G. マンローと日本考古学」の準備にあたっては英国で実地調査を行ったほか、向こうの機関からいろいろな資料や情報を提供してもらいました。その中には本筋からやや外れている（ために図録には掲載できなかった）けれども、興味深い話がいくつかあります。そのうち二つをご紹介します。

一つ目は、ニール・ゴードン・マンローが幼少期を過ごしたキンロスでの家の場所についてです。一八六三年にダンディー市郊外で生まれたマンローは、一年後にキンロスに引っ越しますが、その家の場所はよく分かっ



写真① キンロスの地図（1823年） スコットランド国立図書館提供

Blairlodge School Magazine.

Vol. I.	1st APRIL, 1879.	No. 1.
Contents.		
Introduction.	1	Charge of the 1st Light Dragoons.
A Retrospect.	2	Debating Society.
School Song.	3	Deacons' Notes.
Cricket Notes.	4	Correspondence.
The Culture's Cultivation (Poem).	5	Eligibility.
A Summer Day in the Highlands.	6	Fire-Courts.
The Bold Unique (Poem).	7	The Reading Room.
An Introduction.	8	Swimming Bath.
Football Notes.	9	

INTRODUCTION.

THERE is a period in the history of many schools in which the establishment of a Magazine of their own seems to form a part of their natural progress and development. For the success of such a magazine, various conditions, not always found in schools, are necessary. A certain amount of enterprise, ability, and perseverance on the part of those connected with it is presupposed, but more than this is required. A School Magazine must be more or less a spontaneous outgrowth of the school itself, and be able to rely on it for its support; or, at in the case of a large proportion of literature of the kind, it will die out from inherent weakness. For some time past the question whether or not such conditions of success exist amongst us at the present time has been under consideration. We believe that they do; and we trust that the future of "THE BLAIRLODGE SCHOOL MAGAZINE" will prove that we are not mistaken in our estimate.

写真② ブレアロッジ・スクールの校誌 ファルカーク地域アーカイヴ提供

二つ目は、マンローが卒業した高校についてです。一八七五年、マンローはブレアラロッジ・スクールに進学します。これまで名前しか知られていなかったこの学校についても、今回ある程度調べることができました。この学校はエジンバラの西方三〇キロほどのボルモントにあった私立男子校です。「高校」と訳されることが多いのですが、スコットランドの学制では

ていませ。マンロー家がキンロスに住んでいた一八七一年と一八八一年にはスコットランドの国勢調査が行われていますが、住所は「ハイ・ストリートないしグレート・ノース・ロード」としか書かれていません。これは写真①の地図の左側を南北に走る道を指しますが、キンロスの町はほぼこの通りに沿っており、ほとんど位置を決める手がかりにはならないのです。

ある可能性はないだろうか？もしそうだとすればマンロー家が後に住んでいたのもこの場所なのではないか？そんな期待をもって地元博物館に問い合わせましたが、「その可能性はあるが証拠がない。パースの役場に保管されている文書類を調査すれば新たな情報を得ることが出来るかもしれない」との答えでした。このほかステイードマン家の三姉妹がリーベン湖で溺れたというキンロスシャー・アドヴァタイザー紙の記事（一八六九年一月二二日）に父ロバートの名前が登場していることを教えてもらいました。残念ながら今回以上は追及はできず、将来の調査に期待というところで。なおこの回答をくれたのは地元の博物館のデイヴィッド・マンローさんでしたが、「no relation as far as I know」ということでした。スコットランドではありふれた名前なんですね。

初等教育七年間の後、四年間（十二年間）の中等教育を受けますから、日本ではいえば旧制中学に近い位置付けになるでしょうか。

この学校の校誌がマンロー卒業直前の一八七九年四月から発行されています（写真②）。これによれば、マンローが入学したのは、ちょうど学校長が変わった直後であり、在学期間は学校の変革期だったようです。

一八七五年の一学期には一六人の生徒と二人の教師がいただけでしたが、一八七九年には生徒数は八一人に増加し、常勤六人・非常勤四人の教師が働いていました。この校誌の弁論部の活動記録にマンローの名前が登場しています。「一八七八年の一月三〇日にマンローが「化学」について興味深い実験を伴う講演を行った」ということです。ブレアラロッジは当時としては珍しく科学教育に力を入れていた学校だと言われていますが、マンローもその影響を受けていたのかもしれない。

マンローの卒業後、ブレアラロッジ・スクールはますます発展し、最盛期には三百人以上の生徒がいました。ただし二〇世紀になると経営が悪化し一九〇四年に閉校、一九一一年には少年院となりました。今もボルモント刑務所として一六歳から一九歳の受刑者が服役していますが、ホームページで見える限り当時の建物は残っていないさそうです。（高橋 健）

・付記

今回の展示準備にあたって、神奈川県立歴史博物館所蔵の林国治氏採集の三ツ沢貝塚出土資料を展示いたしました。借用にあたりこの資料の調査を行った際、二年前の特別展「大昔のムラを掘る」三ツ沢貝塚発掘五〇年において赤星直忠氏による採集品として展示・掲載した同博物館所蔵の三ツ沢貝塚出土資料が、やはり林国治氏の採集品であることが明らかになりました。ここに二年前の展示および図録（二六頁）の記載内容を訂正し、お詫びいたします。

はじまつています

私がみつけた 横浜の年中行事 写真募集!

四ヶ月も前から気が早いようですが、博物館では二〇一四年一月二五日から開催する企画展「昔のくらしと年中行事(仮)」展の関連イベントとして、横浜の年中行事を撮影した写真を募集しています。企画展では横浜市内の家々や地域に伝わる行事を取り上げる予定ですが、このイベントは市民のみならずが撮影した身近な行事の風景を応募していただき、企画展示室内の特設コーナーで紹介しようという試みです。

写真の募集は四つの部門に分かれています。一つめは小正月の火まつり行事部門です。小正月の火まつりとは、どんど焼き・セイノカミ・左義長などと呼ばれ、現在は一月一五

日前後におこなわれる行事です。持ち寄った門松や注連飾り、古いお札などを様々な形に積み上げて燃やし、この火で炙った団子を食べると風邪や虫歯にならないといひ、書き初めを燃やして高く舞い上がると字が上手になるなどともいわれます。竹を組んで持ち寄ったものを積み上げるのですが、横浜市内でもこの形は地域によって様々です。実は写真募集のチラシには左上のように二つのバージョンがあります。チラシ右側のどんど焼きの写真がそれぞれ違ってはいるのですが、どちらも横浜市内青葉区の鉄町で二〇一三年におこなわれたものです。同じ日にちに同じ名前で開催され、町内でも隣り同士ながら形がまる

で違いとても興味深いです。

二つめはお盆の砂盛部門です。砂盛とは聞き慣れないことばかもしれませんが、横浜市内では、お盆にご先祖の霊を迎えるために、砂や土を水で練り固めた三〇〜四〇cm四方の

台を作る風習があります。砂盛や盆山・ツカと呼ばれるこの台の上や脇にキウウリのウマやナスのウシを置き、迎え火や送り火を焚きます。現在ではスチロールや木箱に土や砂を詰めたものもあり



本牧の盆山

ますが、この風習

は神奈川県内に特徴的に見られます。中区の本牧あたりでは砂を円錐形に固め、サルボウとヨナキという貝を貼り付けたものを盆山と呼んでいます。左上の写真は今年の七月に本牧で撮影したものです。現在は埋め立てで海が遠くなり、簡単に砂や貝を手に入れることが難しくなっているそうです。

三つめはお正月のお雑煮部門です。明治二二年に誕生した時には人口二万人であった横浜も、今では三七〇万人の人々が住む街になりました。その横浜では、ふるさとの味やお母さんからのレシビ、ご夫婦の出身が異なる時はその折衷タイプ、丸いお餅に澄まし汁、四角いお餅にみそ仕立てなど、どうやら味や具材もさまざまなお雑煮が食べられているようです。代々住まれている方も各地から移り住んでこられた方も、お正月にどんなお雑煮が食べられているかを通して横浜という街を考えてみたいと思います。写真と一緒にレシビや味・作り方の由来を教えてください。

四つめは自由応募部門です。現在では、ひな祭りや七夕、端午の節供などの昔ながらの行事のほかにもさまざまな年中行事がみられます。クリスマスやバレンタイン、ハロウィンなどの海外に起源をもつものや、節分のように、恵方巻きなどの他地域の行事内容が横浜にも広まってきたものがあります。昔ながらの行事以外にも、現代の生活の中ではどのような行事が節目としておこなわれているのかを皆様からご紹介いただく部門です。

募集は以上の四部門です。写真は今年撮ったものでも古いものでも構いません。貴重な記録として博物館で保管させて頂きたいと思ひます。メールでの応募もできますので、詳しくはチラシまたは博物館ホームページをご覧ください。みなさまからの応募お待ちしております。

(羽毛田智幸)

ちよいと

ミュージアムショップたいむ Museum Shop Time

横浜市歴史博物館 オリジナル工作キット

当館の体験教室でもたびたび使われて、ミュージアムショップでも好評発売中のまが玉やまゆ細工、あじろ編み(縄文の小物入れ)の制作キットを紹介いたします。

「まが玉キット」の石は固めの青田石と、やわらかめの滑石があります。紙ヤスリの他に棒ヤスリの入ったもの、石が複数入っているデラックスキットなど、好みに応じて選ぶことができます。

まが玉キット 300円〜1260円
まゆ細工キット 450円
(バラ売りは30円)
あじろ編み制作キット 300円



まが玉は完成するとこんな感じに

縄文の小物入れ



当館マスコットキャラクター「レックル」もまゆ細工で作るとこんな感じに!

「まゆ細工キット」はキット以外にも、まゆのバラ売りがあるので、好きな色を買ひ足すこともできます。

「あじろ編み制作キット」(縄文の小物入れ)は、個人差はありますが、1時間〜2時間位で完成します。素材がちよと硬めなので、小さいお子様が作る場合は大人が手伝ってあげるといいですね。

これからもオリジナル工作キットの新商品をごんごん作っていきます。

大塚遺跡まつりとラストサタデープログラム

大塚遺跡まつりは昨年から始めた新たなイベントです。キャッチフレーズを「子どもの日スペシャル」としたように、ゴールデンウィークの五月五日に実施しています。博物館に隣接する大塚・蔵勝土遺跡公園を舞台に、子どもたちや親子で楽しみながら古い時代を体感してもらえるようなプログラムを組んでいます。



写真① 野焼きの様子。炎の中に体験学習で作った弥生土器が見えています。

遺跡公園の体験広場では土器の野焼きと古代米一口体験を行いました。野焼きでは、四月一日(日)の体験学習「小さな弥生土器」で製作した甕形の弥生土器と、横浜縄文土器づくりの会が製作した縄文土器の焼成を行いました。人の背丈ほどにもなる炎の迫力と、離れたところにも感じられる炎の熱さは、野焼きならではの体験で、いにしえの土器づくりの一端を垣間見ていただけたのではないかと思います。古代米一口体験では、稲の原生種の流れを組む黒米を、復元した土器で調理し、味わっていただきました。

大型地形模型の脇では、マイギリ式の道具を使った火起こし体験を行いました。火種を起し、それをほぐした麻紐(あさひも)でくるみ、腕を回したり、息を吹きかけたりして炎にします。マイギリ式は古代の方法ではないといわれていますが、ライターやマッチを使わず、自らの力だけで炎をおこすことは結構難しく、子どもや大人も感動する体験だったようです。竪穴(たてあな)住居が復元された遺跡エリアでは、弓矢体験を行いました。竹を材料にした弓矢を使い、シカやイノシシが描かれた的を射るものです。一見簡単そうですが、実際にやってみると意外に難しく、なかなかまっすぐに飛んでくれません。途中で失速したり、あらぬ方向に飛んだりする矢が大半で、大人が何回も挑戦してしまうほどでした。

今年の大塚遺跡まつりは天候にも恵まれ、延べ二〇〇名余りにお楽しみいただきました。来年のGWのひときは、遺跡公園で古代に触れながら楽しんでみませんか。

◆◆◆
当館のラストサタデープログラム(以下ラストサタと表記します)は、毎月最終土曜日に開催しているイベントです。ラストサタといえは学芸員による常設展示解説ですが、今年度は「おもしろいぞ!紙芝居」という新たなプログラムが加わりました。演じる紙芝居は平成二三年(二〇一三)に蔵勝土さんから当館にご寄贈いただいた街頭紙芝居コレクションです。

街頭紙芝居は、毎日決まった場所、決まった時間に舞台を積んだ自転車に乗って演じ手が現れ、子どもたちに水飴やソースせんべいなどを売ってから演じられました。そして「続きは次回のお楽しみ」という決まり文句で終わります。続きは翌日見ることができ、子どもたちはお小遣いを握りしめ、ワクワクした気持ちで紙芝居の自転車が来るのを待っていました。これは水飴などの売上げで演じ手が生計を立てていた街頭紙芝居ならではの光景です。

今回の「おもしろいぞ!紙芝居」では、街頭紙芝居が演じられた光景や何巻も続く面白さを伝えられるように、翌月のラストサタで続きの巻を上演することにしました。これまで全三三巻の「赤外流星(あかりりゅうせい)人」、途中抜けがありますが全三〇巻の「まぼろし探偵長暗黒街」、一巻から一五巻まで続いている「新かぐや姫天馬の怒り」を中心に、クイズやまんがを織り交ぜて上演してきました。続きものは今のところ毎月それぞれ一〜二巻ずつ演じているので、一つのタイトルが完結するまで少なくとも一年はかかると思われます。

街頭紙芝居をモノとして次世代に継承するのは博物館の使命ですが、紙芝居を演じる演じ手とそれを見る観客によって生まれる場の



写真② 赤外流星人第3巻を演じる のんきやあややさん。実演には、なつかし亭岸本茂樹さんと和田佳さんにもご協力をいただいています。

一体感も含めて継承していくことが街頭紙芝居には必要と考えます。「多くの人に街頭紙芝居を見てもらいたい」という思いからコレクションを当館に託された蔵勝土さんは、残念ながらご逝去されましたが、この「おもしろいぞ!紙芝居」がその活用の一歩になればと思います。

【今年度のラストサタデープログラム】

10月26日(土)、11月30日(土)、12月21日(土)
1月18日(土)、2月22日(土)、3月29日(土)
※12月・1月は第3土曜日に実施します。

【ご注意ください】

「おもしろいぞ!紙芝居」
①二時、②三時三〇分、③一五時(いずれも三〇分程度)

【学芸員による常設展示室解説】

①二時、②三時、③四時(いずれも四〇分程度)

小中高校生は、毎週土曜日に常設展示室・企画展示室とも無料で入館できます。

ラストサタの土曜日はぜひ博物館で楽しみください。
(刈田 均)

??????? 知ってますか ????????

エントランスホールコンサート

頭にエントランスとついているように、玄関ホールで行うコンサートです。この7月に24回目をむかえました。

なぜホールで行うのか？その理由は、誰でも自由に参加できるからです。いつでも入退出が可能なので、1曲だけ聞くとすることも出来ます。また形式ばったコンサートではないので、音をたてることをそんなに気にしなくても良いことです（もちろんご配慮は願いますが…）。子供にも聞かせたいが泣き声が心配。そんなセンター北周辺に多い若い家族も気軽に参加しています。

この冬もコンサートを行う予定です。この機会に博物館に足を運んで、開港以前の横浜の歴史にも触れてみてはいかがでしょうか。

これからの催しもの

- ◎10月12日(土)～11月24日(日)
企画展「横浜市立大学コレクション・古地図の世界―地球のかたちと万国の大地―」
- ◎12月7日(土)～平成26年1月13日(月・祝)
企画展「市指定文化財の埴輪たち」(仮称)・
「横浜の遺跡展―古代都筑郡の考古学―」
- ◎平成26年1月25日(土)～3月23日(日)
企画展「昔のくらしと年中行事」(仮称)

表紙写真は

富士山の須山口からの登山の情景を描いた絵巻で、はじめ弘化2年(1845)に小泉斐という画家が描き、それを明治23年(1890)に写したものです。小泉によると、この絵は山上の珍しい景観と、険しい山道の登山を描いたということです。その言葉どおり、ごつごつとした噴火口の様子が印象的な作品です。

横浜市歴史博物館●日誌 二〇一三年四月一日～二〇一三年九月三〇日

- 4月6日 特別展「N.G.マンローと日本考古学―横浜を据えた英国人学者」(5月26日まで)
- 4月7日 特別展関連フロアレクチャー
- 4月13日 特別展関連研究講座「スコットランドのマンロー資料」
- 4月14日 体験学習「小さな弥生土器」
- 4月24日 特別展関連通説散歩「横浜にマンローの足跡を訪ねて」
午前の部:三ツ沢貝塚周辺を歩く 午後の部:横浜旧居留地を歩く
- 4月27日 特別展関連研究講座「マンローの頃の横浜」
ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近現代】」
ラストサタデープログラム「おもしろいぞ!紙芝居」【火起こし体験】
- 4月29日 「国際博物館の日」協賛イベント ゴールデンウィークは博物館へ!「あじろ編みワークショップ」
- 5月3～6日 「国際博物館の日」協賛イベント ゴールデンウィークは博物館へ!「特別展親子向けフロアレクチャー」
- 5月5日 「国際博物館の日」協賛イベント ゴールデンウィークは博物館へ!こどもの日スペシャル「大塚遺跡まつり」
体験学習「小さな弥生土器」野焼き
- 5月11日 特別展関連研究講座「Prehistoric Japanを読む」
- 5月12日 特別展関連フロアレクチャー
- 5月15日 ふるさと横浜探検1「よこはま事始め 馬車道から久保山へ」
- 5月18日 特別展関連講演会「N.G.マンローと日本考古学」
- 5月22日 特別展関連バスツアー「(軽井沢にマンローの足跡を訪ねて)」
- 5月25日 特別展関連フロアレクチャー
ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【近世】」
ラストサタデープログラム「おもしろいぞ!紙芝居」【火起こし体験】
- 6月8日 収蔵資料展「博物館コレクション 絵巻でみる江戸時代」(7月7日まで)
- 6月8・9日 収蔵資料展関連イベント「絵巻に触れてみよう」
- 6月12日 収蔵資料展関連バスツアー「ふるさと横浜探検2「東海道中津ノ谷峠と薩摩峠を訪ねて」
- 6月15日 収蔵資料展関連フロアレクチャー
- 6月15・16日 収蔵資料展関連イベント「絵巻に触れてみよう」
- 6月16日 大人の体験講座「あじろ編みでバックをつくらう」
- 6月22・23日 体験学習「小田原提灯(ちょうちん)」
- 6月23日 収蔵資料展関連絵巻鑑賞ミニ講座「武士の世界―大名行列絵巻、蘭狩絵巻」
- 6月29日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【中世】」
ラストサタデープログラム「おもしろいぞ!紙芝居」【火起こし体験】
- 6月29・30日 収蔵資料展関連イベント「絵巻に触れてみよう」
- 6月30日 収蔵資料展関連フロアレクチャー
- 7月6日 収蔵資料展関連絵巻鑑賞ミニ講座「庶民の世界―風俗絵巻」
- 7月6・7日 収蔵資料展関連イベント「絵巻に触れてみよう」
- 7月7日 収蔵資料展関連フロアレクチャー
- 7月12日 体験学習ミニ展示「ちょっと昔をたどってみよう!不思議な形の道具たち」(9月19日まで)
- 7月13日 収蔵資料ミニ展示「ちょっと昔をたどってみよう!おもしろいぞ!紙芝居」(7月21日まで)
- 7月14日 第24回エントランスホールコンサート「ヴァイオリン、チェロ、ピアノの華麗なる響き―名曲コンサート」
- 7月15日 体験学習「(まゆ)細工」
- 7月21日 収蔵資料ミニ展示解説
体験学習「竹の風車」
- 7月27日 企画展「水へのいのり―古代東国の川辺と井戸のまつり―」(9月23日まで)
ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【古代】」
ラストサタデープログラム「おもしろいぞ!紙芝居」
- 7月28・31日 体験学習「縄文館を粘土でつくろう」
- 8月3日 企画展関連フロアレクチャー
収蔵資料ミニ展示「吉田新田の開発」(8月25日まで)
- 8月4日 夏休み博物館たんけん隊(学芸員と企画展を楽しむ)
- 8月9・10日 体験学習「染めもの(万葉集)」
- 8月10日 企画展関連研究講座「王の支配と水―食国(をすくに)儀礼との関連から―」
- 8月11日 収蔵資料ミニ展示解説
夏休み博物館たんけん隊(学芸員と企画展を楽しむ)
- 8月14日 体験学習「縄文ゴシック」
- 8月17日 企画展関連講演会I「東アジアにおける洪水伝承の成立と展開―水に対する心性をめぐって―」
- 8月17・18日 街頭文化祭「チホリ兄弟舎紙芝居」
- 8月18日 夏休み博物館たんけん隊(学芸員と企画展を楽しむ)
- 8月22・23日 体験学習「勾玉」
- 8月23日 企画展関連見学バスツアー「横浜の水源地・山梨県道志村をたずねて」【横浜市水道局連携企画】
- 8月25日 収蔵資料ミニ展示解説
夏休み博物館たんけん隊(学芸員と企画展を楽しむ)
- 8月31日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始II】」
ラストサタデープログラム「おもしろいぞ!紙芝居」
- 9月1日 企画展関連フロアレクチャー
- 9月7日 収蔵資料ミニ展示「結城合戦絵巻(写本)」(9月16日まで)
- 9月8日 企画展関連研究講座「水神の化身」
- 9月10日 企画展関連通説散歩「(横浜水道記念館をたずねて)【横浜市水道局連携企画】」
- 9月14日 壁穴住居に泊まる!
- 9月15日 企画展関連講演会II「古墳時代豪族の治水と神まつり」
- 9月16日 収蔵資料ミニ展示解説
- 9月22日 企画展関連フロアレクチャー
- 9月27日 ふるさと横浜探検3「緑区恩田川流域の田んぼと新治の里山を訪ねて」
- 9月28日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示室の解説【原始I】」
ラストサタデープログラム「おもしろいぞ!紙芝居」

編集後記

今年も暑い夏でした。でも、そんな日も復元住居に足を踏み入れると涼しいのです。少しでも生活環境を良くしようという弥生人の知恵なのではないでしょうか。では、反対に冬の寒さはどうなのか。この冬、皆様で体感しに来てみてはいかがでしょうか。(H)

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

- 開館時間
午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)
大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン
- 休館日
歴史博物館・大塚遺跡
月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。
- 常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
- ◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。
- ◆「濱ともカード」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

- 交通案内図 横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
(「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分)



- 駐車場あり(1時間200円)
- インターネットホームページ <http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>
@yokorekihaku

